



この え ただ てる
近 衛 忠 輝

日本赤十字社 社長
国際赤十字・赤新月社連盟会長

1939年の5月8日（世界赤十字・赤新月デー）東京生まれ。学習院大学卒業後、ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに2年間留学。その留学先からの帰国途中に中東、アジアの紛争地を巡り、帰国後日本赤十字社に入社。以来40年以上に亘り赤十字一筋で活躍。

近衛社長は日本赤十字社の幅広い国内活動において活躍しており、活動には災害救護活動、医療事業、血液事業、社会福祉事業、救急法等講習普及事業、青少年赤十字、国際救援活動などが含まれている。

近衛社長が行ってきた主な国際活動は、1970年のバングラデシュ（当時の東パキスタン）活動から始まり、ナイジェリア戦後復興支援、グアテマラ地震救援、フィリピン火山噴火救援、メキシコ地震救援、旧ユーゴスラビア紛争救援及び、トルコ地震救援、スマトラ沖地震・津波救援など数多く、中には国交がないために政府が行なえなかった人道的な戦後処理事業等もリーダーシップを発揮して行ってきた。今まで訪れた国は88カ国に上る。また、血液事業の分野では、国内の事業展開のみならず、タイ赤十字社と共同でアジア地域赤十字・赤新月血液事業シンポジウムを開催するなど、国際赤十字の一員として他国との協力関係を築いた。1991年～2005年には、日本赤十字学園の理事長を務め、看護師の養成のための赤十字看護大学の設立や修士課程・博士課程の創設により看護教育の向上に積極的に関与した。

赤十字での活動の他、国内では中央防災会議や地雷廃絶日本キャンペーンなどの世話人として、国内における数多くの団体に関わり、人道支援活動の普及に貢献している。2005年、日本赤十字社社長に就任。同年11月、186カ国が加盟する国際赤十字・赤新月社連盟の副会長に就任後、2009年11月、国際赤十字・赤新月社連盟の会長に就任し、現在に至る。